

納付金・市町村標準保険料率算定のイメージ

保険給付費（医療分）
県総額：3,722億円

前期 高齢者 交付金	公費等	納付金 算定 基礎額
1,583 億円	1,066 億円	1,073 億円

A市
納付金

90 億円

B市
納付金

1 億円

C市
納付金

2 億円

...

① 保険給付費から前期高齢者交付金や公費等を控除して納付金算定基礎額を算定。

② ①を所得や人数のシェア、医療費水準に応じて各市町村に配分し、各市町村の納付金を算定。

A市

90 億円	+	A市にかかる経費 7 (保健事業など) 億円	
	-	A市が受ける費用 15 (保険者支援制度など) 億円	
	=	A市 82 保険料総額 億円	

82 億円	÷	A市の 標準的な 90 収納率 %
----------	---	-------------------------

A市 調整後 保険料総額 91 億円

91億円

51億円	→ 応能割賦課総額
40億円	→ 応益割賦課総額

〈市町村標準保険料率〉			
所得割率 = 応能割賦課総額 ÷ 所得総額			
(7.87%)	÷	51億円	÷ 648億円)
均等割額 = 応益割賦課総額 ÷ 被保険者総額			
(47,600円)	÷	40億円	÷ 8.4万人)

③ ②に市町村ごとの経費や補助金等を加減算し、保険料総額を算出

④ ③に標準的な収納率を割り戻し、調整後保険料総額を算出

⑤ ④を各市町村の所得や人数のシェアに応じて分割した上で、それぞれ標準保険料率を算出

納付金の各市町村への配分イメージ（上記②の配分方法）

$$c = C \times \{1 + \alpha \cdot (\text{年齢調整後の医療費指数} - 1)\} \times \{\beta \cdot (\text{所得のシェア}) + (\text{人数のシェア})\} / (1 + \beta) \times \gamma$$

c：各市町村ごとの納付金基礎額

C：納付金算定基礎額

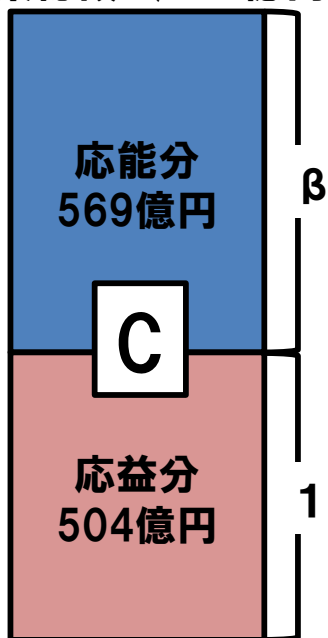
α：医療費指数反映係数（ $0 \leq \alpha \leq 1$ ）

β：全国平均と比較した県の所得水準（全国平均のとき $\beta = 1$ ）

γ：総額をCに合わせるための調整係数

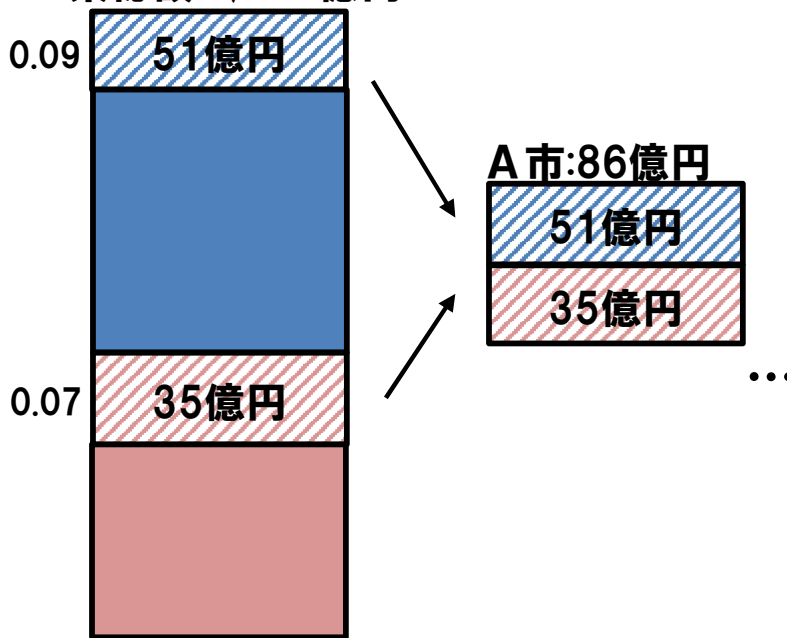
	県	A市	...
所得総額 (シェア)	7,485億円 (1)	700億円 (0.09)	
人数 (シェア)	108万人 (1)	8万人 (0.07)	
年齢調整後の 医療費指数	0.92	0.93	

県総額:1,073億円

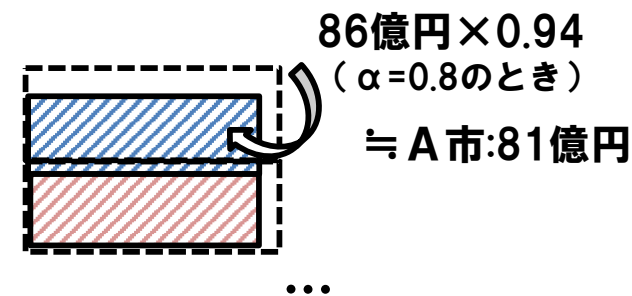


① Cをβ:1に配分
例) $\beta = 1.13$

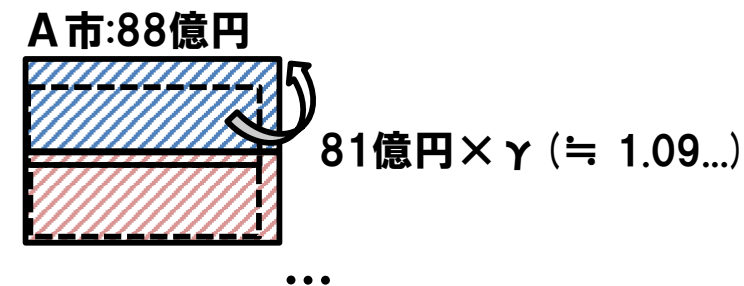
県総額:1,073億円



② ①のうち、応能分を所得のシェア、
応益分を人数のシェアに応じて各市町村に配分



③ ②に $\{1 + \alpha \cdot (\text{年齢調整後の医療費指数} - 1)\}$
を乗算



④ ③の各市町村合計がC（1,073億円）と等しく
なるよう、全市町村の③にγを乗算